

日本学術会議へ向けて



日本オペレーションズ・リサーチ学会 会長

近藤 次郎

日本オペレーションズ・リサーチ学会は、日本品質管理学会、日本経営工学会とともに学術会議第5部に研究連絡委員会(経営工学)を組織し、学術会議に対して1名の会員推薦を割り当てられることになった。

学術会議の改組に当って当学会からも代表を出そうとする要望は前期横山会長時代からの要望であったが、この度ようやく長年の念願が実を結ぶことになった。この方向に努力された多くの方々を多としたい。

これでORもやっと学問として認知されたことになる。ORが大学レベルで広く教育されていることは、本誌特集(ORの教育)—本年4月号—にも詳しく調査の結果が掲載されているが、ORが新しい学問であることには疑いの余地がない。事実、ORの創始者イギリスのブラケット卿は、1948年ノーベル賞を受賞している。

しかし、わが学会の会員は経済学に属している人もいるし、工学以外の自然科学、理学、農学、医学などの分野の方もおられるので、第5部(工学系)に所属することについてはご不満の方も少なくないと思う。また、オペレーションズ・リサーチだけで独立することができなくて、経営工学、品質管理と連合しなければならなかったことについて疑問をもたれる方があると考える。これらについていちいちここで弁解するつもりはないが、要するに学術会議の改革にあたって代表を出そうとするためには、OR的にこの方法が最適であると現執行部が判断したからである。

しかしながら、学術会議に地位を認められたからといって手放しに喜ぶわけにはいかない。ORを学問としてますます高いレベルに引き上げる必要があり、そのために科学研究費などもおおいに活用する必要がある。このときに適切な研究課題を決めることが必要である。それには大勢の方のご意見を承りたいと思っているが、たとえば、高齢化、

情報化、国際化社会に向かって、「21世紀のわが国の産業とその経営」などという課題は
 いかかなものであろうか。また、「21世紀の世界的な資源エネルギーの開発の予測」など
 もよいであろう。それにとまって国際紛争を戦争以外の手段で処理する方法なども研
 究されるべきであろう。

第2は、学術会議はわが国の科学者の内外に対する代表機関であるから、それにふさ
 わしい人を推薦すべきであろう。この人はOR、QC、IMの全会員の総意を学術会議
 に反映することができるだけでなく、真に日本学術の発展のために広い視野と高い見識
 をもって発言できる人が望ましい。三学会では、この改革に向けて今年の秋から推薦人
 を選考し1人の候補者を(従来のように有資格者の選挙によらないで)推薦し、来年の7
 月には首相が任命することになっている。

私は、できるだけこの場合にも会員の声が反映するようにしたいと考えているが、全
 会員に投票を求めることは多分できないと予想される。しかし、少なくとも評議員会で
 選考する手続きをとりたいので、会員の方はこのさい、適当と思われる方があれば評議
 員の方か、学会事務局宛に推薦していただきたいと思う。全会員の納得が得られる良い
 人材を中央、地方、年齢を問わずに推薦することは日本の学術の振興のためになると考
 えているからである。

学術会議の新しい改組に向けて会員諸氏に状況を報告し、その奮起をお願いする次第
 である。

* * *

日本学術会議の各部別新専門分野について—昭和59年7月3日付 総理府本府政令第240号より—

部 別	専 門	部 別	専 門
第1部	語学・文学, 哲学, 教育学, 心理学, 社会学, 歴史学, 地域研究	第5部	基礎工学, 応用物理学, 機械工学, 電気工学, 電子工学, 情報工学, 土木工学, 建築学, 金属 工学, 応用化学, 資源開発工学, 造船学, 計測 ・制御工学, 化学工学, 航空宇宙工学, 原子力 工学, <u>経営工学</u>
第2部	基礎法学, 公法学, 国際関係法学, 民事法学, 刑事法学, 社会法学, 政治学	第6部	農学, 農芸化学, 林学, 水産学, 農業経済学, 農業工学, 畜産学, 獣医学, 蚕糸学, 家政学, 地域農学, 農業総合科学
第3部	経済理論, 経済政策, 国際経済, 経済史, 財政 学・金融論, 商学, 経営学, 会計学, 経済統計 学	第7部	生理科学, 病理科学, 内科系科学, 外科系科学, 社会医学, 歯科学, 薬科学
第4部	数理科学, 物理科学, 化学, 生物科学, 人類学, 地質科学, 地理学, 地球物理学, 科学教育, 統 計学, 情報学, 核科学		